

# 教職大学院便り

2026/05/07 発行 No.14  
編集：教職実践研究科2年 菊地

4月6日（月）、福島大学の入学式が挙行されました。県内の多くの小中高等学校と同じく、本学もいよいよ新年度のスタートです。今年度は新たに4名の教員と、9名の新生を仲間として迎えました。

4月9日（木）からは大学の講義も始まり、キャンパスには活気が満ちています。

4月は、1年生にとって、入学前に設定した研究テーマについて、先生方との議論や学生同士での対話を通じ、自身の問いを深掘りする時期となりました。学びの土台を固めている真っ最中です。一方、2年生は前年度から継続して連携協力校での実習に取り組むなど、まさに「理論と実践の往還」をしながら研究を加速させています。

今号では、期待に胸を膨らませる1年生と、決意を新たにした2年生、それぞれの新年度の抱負をご紹介します。



## 授業デザインコース 1年 岡田佳子

日々の授業や子どもたちと向き合う時間の中で、「これでいいのかな」と自問自答しながら悩むことが多くありました。子どもたちの笑顔に救われつつも、もっと一人ひとりに寄り添った確かな支援がしたい、そのための「引き出し」を増やしたい。そんな思いから、一歩踏み出すことを決めました。

この二年間は、日々の実践を立ち止まって見つめ直し、理論という手がかりを通して学びを深めていきたいと考えています。諸先生方や志を同じくする仲間みなさんと語り合えることが今から楽しみです。恵まれた環境で学べることに感謝し、快く見送ってくださった現場の先生方への恩返しの気持ちを込めて、研究や実践に精一杯取り組むつもりです。ここで得る学びを、いつか教室で待つ子どもたちにしっかりと還元できるよう、一日一日を大切に過ごしたいと思います。



1年生同士で研究テーマについて語り合い、聞き合いました。何度も行うことで、自分の価値観やその背景と改めて向き合います。

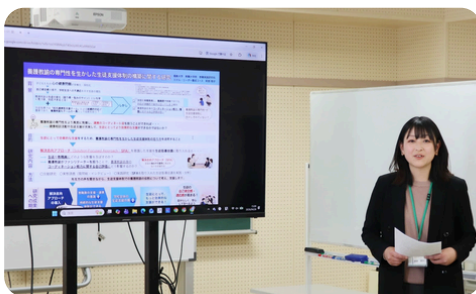
## 授業デザインコース 1年 箭内 奨

これまでの現場経験を問い直し、授業で取り組んできた協働的な学びをさらに発展させ、よりよい授業の在り方を研究したいと思い、教職大学院の道に進みました。現場では課題を感じながらも、授業について時間をとって省察したり、教育に関する理論を学んだりすることが難しいということがほとんどです。教職大学院では、専門家である研究者教員、経験豊富な実務家教員の先生方から日々ご指導いただける恵まれた環境で自らの研究を進めることができます。また、意欲的な院生の皆さんと高めあえることも大きな魅力のひとつです。ストレートマスター・小・中・高・特別支援の現職派遣の方がおり、様々な角度から自らの教育観や授業観を語ることで大きな刺激を受けるとともに大変学びが多い日々を過ごしています。2年間こうした環境で、実践と省察を繰り返すことで研究を深め、授業力の向上そして教師としての成長のために学んでいきたいです。

私は『自己を見つめる道徳科を要として、「よりよい自分」を創る道徳教育』というテーマをもち、道徳科授業や各教科等との関連、そして「道徳の単元を組む」ことについて勉強しております。子ども達が自分を見つめ、多面的・多角的に道徳的な学びを深めていくために、授業ではどのような問いを大切にすべきか、各授業の内容項目の配列や他の教育活動とのカリキュラムはどう在るべきかと、試行錯誤しながらよりよい方法を模索しています。子ども達が目標をもって高め合う姿、仲間を思い、寄り添う姿、悩み葛藤しながらも前向きに動き出す姿、どんな姿にもその背景には子ども自身の思いや考えがあると感じます。子ども達一人一人が、昨日より今日、今日より明日の自分は「よりよい自分」で在りたいと願い、考えを深めていけるような道徳教育をこれからも目指していきます。

残り1年間の貴重な大学院生活、1日1日を大切に精一杯学び浸り、精進していきたいと思っております。

あっという間に1年間が過ぎ、大学院生活も2年目を迎えました。1年目は、知識が整理されていないことや、子どもとのかかわりにおける基本の不足など、自分自身の課題を強く実感する一年でした。しかし、その気づきを通して、学びたい領域が広がり、研究の焦点も次第に明確になってきました。また実習では、大学院生という立場だからこそ、現場の先生方や子どもたちから多くを学べることに気づき、その視点の意義を実感しています。2年目は視点を意識的に広げ、特別支援教育の枠組みに留まらず、校種や教科の枠を超えたことについて学ぶなど、今この時だからこそできることに貪欲に取り組んでいきたいと考えています。特別支援教育にかかわる研究においては、基本に立ち返りながら、授業実践を通して子どもたちと丁寧に向き合い、この貴重な環境で学びを一層深め、修了する頃にはここで得た知見を活かし、子どもに応じた柔軟な対応ができる教師でありたいと思っています。



4月末、1年生が自身の研究テーマを可視化したポスター発表会を行いました。会場では付箋を用いた意見交換や多角的な見せ方をしました。



大学の先生方と、研究者として同じ目線で議論を重ねることができるのは院生の特権です。大学で研究を続けてこられた「研究者教員」と学校現場を経験されてきた「実務家教員」それぞれの視点からたくさんの示唆をいただけます。

今年は1・2年生合わせて20人！



教職大学院の  
情報はこちら

入試情報は  
こちら



福島大学公式  
マスコットキャラクター  
めばえちゃん



<お問い合わせ先>

福島大学 人間発達文化学類 支援室

Mail: ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

Tel: 024-548-8103